



こばやし たか ゆき

小林鷹之からの手紙

Vol.59

衆議院議員
小林鷹之の国政報告

討議資料

自民党千葉二区支部小林鷹之事務所発行
(千葉市花見川区・習志野市・八千代市)

HP



kobayashi-takayuki.jp

伊勢神宮の皇大神宮(内宮)に参拝致しました(記帳)



伊勢神宮参道を鈴木英敬衆議院議員と



拜殿内で記帳

地元での国政報告会などの活動も全力で!



地元の支援者や小学生が国会見学に来て下さいました。



小林鷹之(こばやし たかゆき)

Profile

現役職 自民党副幹事長

元役職 経済安全保障担当大臣、
内閣府特命担当大臣(科学技術政策・宇宙政策・経済安全保障)、
防衛大臣政務官

後援会に入会しませんか 会費無料

- 各種行事のご案内
 - ファックスマガジン、メールマガジンを配信
- お申込み、お問い合わせは、電話(地元事務所)、メールまたはホームページからお願いします。

地元事務所 〒276-0033 千葉県八千代市八千代台南1-3-3 山萬八千代台ビル1階
TEL047-409-5842 FAX047-409-5843

国会事務所 〒100-8981 東京都千代田区永田町2-2-1 衆議院第一議員会館417号室
TEL03-3508-7617 FAX03-3508-3997

Mail info@kobayashi-takayuki.jp

Twitter twitter.com/kobahawk

facebook www.facebook.com/hawk.kobayashi

HP kobayashi-takayuki.jp

「新たなステージへ」

昨年10月に経済安全保障担当大臣、内閣府特命担当大臣(宇宙政策、科学技術政策)として初入閣し、8月10日の退任までの十ヶ月間、岸田内閣の最重要法案であった「経済安全保障推進法」を成立させるなど、職務に邁進することができました。閣僚として重要政策を実現し、海外要

人との人脈を形成するなど貴重な経験ができたのは、ひとえに皆さまのご支援の賜物です。今後、自民党の副幹事長という立場で党務と政策づくりに携わります。今回の手紙では、閣僚としての仕事を振り返った所感と今後に向けた抱負を述べます。



経済安全保障推進法が起立多数(上)により可決成立したことに小林がお辞儀(下)



出版予定の本の表紙

今、なぜ宇宙資源法なのか

出版予定の本の表紙

(タイトル等は変更する可能性があります)

小林鷹之前大臣の『退任会見』の要旨です。(令和4年8月10日)

大臣としての担務について小林鷹之の考え方、思いの一端を述べています。内閣府のホームページからご覧下さい。



視察や参議院議員選挙の応援



参議院議員選挙で応援演説



日本科学未来館視察。左は浅川館長。AIスーツケース体験をしました



スタートアップ視察

経済安全保障に宇宙政策についての講演



宇宙の安全保障シンポジウム
右はエマニュエル米大使



仏の宇宙機関(CNES)設立60周年記念式典で挨拶



民間企業主催の講演会

宇宙ビジネスカンファレンス



青年局主催の講演会

各国の大使や議員と意見交換



イタリア大使



米国議員団



サリバン米上院議員



フランス大使



シンガポール大使



ドイツ外務大臣

幹部職員への退任挨拶後に皆さまに見送りを頂きました



日本を「世界をリードする国」にしたい。その強い思いを持ち続け、大臣の職務にも臨んでまいりました。心掛けたことがいくつもありました。①国が目指すかたち(姿)を示した上で、政策の骨格については自ら打ち出す。意識すべきは、中長期的な視点と全体最適の視点。前例に囚われることはしない。②決断した政策については、責任をもって関係者を説得する。③国民に対しては分かり易い説明を心掛ける。

どれも当たり前のように感じられると思いますが、組織のトップとして、これらを徹底することによって、職員の意識が変わり、仕事の質が高まることを実感しました。

経済安全保障

「経済安全保障推進法」の内容については過去の手紙で紹介しましたので、ご覧頂けますと幸いです。国会での法案審議の際に心掛けたのは「攻めの答弁」です。国会答弁は国民にご理解頂けるように、分かり易く、具体的に、そして、細かな質問にも、所掌外の質問にも、できる限り大臣が答弁すること。結果として、私の答弁回数も558回にも上りましたが、多くの野党の方々にもご賛同頂きました。

8月1日に新たに内閣府に設置した「経済安全保障推進室」を中心に、法律を実効的に運用するために重要となる政省令の策定や、「世界に勝てる技術」を見極めるための新たなシンクタンクの立ち上げ、新たな国家安全保障戦略の策定

科学技術政策

科学技術力は国力の源泉です。かつて技術立国と呼ばれた日本ですが、国際的には研究力・技術力は低下の一途を辿っています。その危機感を持つて、「やる気」のある大学や博士課程の学生を支援するための制度(例えば10兆円ファンドの立ち上げなど)を推進してきました。

日本学術会議(以下、「日学」)の改革については、梶田隆章日学会長と対話を重ね、共に取り組んでまいりました。従来、政府と日学との関係は、他国のそれと比して、良好なものとは言えませんでした。私は、両者の立場が異なる以上、時として意見が異なるのは当然であり、重要なものはそれを共に克服していくための努力であり、対話であると考えました。前述の危機感に梶田会長はじめ日学の執行部とも、徹底的に意見交換をし共有できるところまできました。国民に幸福をもたらす、わが国の研究力や存在感を国際社会の中で高めるためにも、政府とアカデミアが信頼関係を構築し、「政策のための科学」という視点を共有することが大切です。

量子、人工知能、バイオ、半導体等々、将来の社会を大きく変えていく先端技術は、その研究開発の成果が将来、民生に使われるのか、安全保障に使われるのか、もはや事前に判別することは困難になっています。「両義性」と言われます。世界各国はこうした先端技術の獲得に向け、産官学連携の下、国家戦略として取り組

に向けて、準備を急いできました。私は国会審議等において、「今回の法整備は重要な一歩であるが全てではない」と繰り返し申し上げました。課題山積の中、国民の命と暮らしを経済面から守り抜くためには、毎年法整備を行うくらいの覚悟が必要だと考えています。例えば、同志国との共同研究や情報共有を深めるための「セキュリティ・クリアランス」の導入、サイバーセキュリティの強化、緊急時の体制整備(「経済安全保障推進法」はあくまで平時から備えるもの)などは政治手腕が試される課題です。

また、今回、エネルギーや食料の供給に大きな影響を与えているウクライナ情勢についてわが国は十分な備えができておりませんでした。今後、不確実性が増す国際情勢の中で、国民の命と暮らしを守り抜くためにも、主要産業について様々なリスクシナリオを設定し、脆弱性を洗い出し、また、強みを把握する必要があります。今年3月にリスクシナリオを点検する省庁横断の会議体を立ち上げ、定式化しました。例えば、海外との通信を支えている海底ケーブルが同時に寸断された場合、あるいは、物流の要衝たる東京湾航路の最も狭い箇所(浦賀水道)で、昨年スエズ運河で生じた封鎖事故に類する事故が生じた場合の対策や優先順位付けを平時から行っておく必要があります。

こうした状況の中、後任の高市早苗大臣にバトンを渡しましたので、党からしっかりとサポートし、経済安全保障を強化していきます。

安全保障上の研究については慎重な姿勢であった日学ですが、こうした両義性を持つ先端技術の研究開発にわが国が及び腰になれば、世界をリードするどころか、世界の後塵を拝することになる。その思いを共有した結果として、私からの問いかけに対し、日学としてこうした研究について前向きなメッセージを發して頂いたことは大きな前進です。これが転換点となり、わが国の研究力、アカデミアが世界の中で評価されるよう、政府も共に汗をかくことが必要です。

宇宙政策

宇宙政策については、私が閣僚になる前から、自民党内で最も尽力してきた分野の一つです。「2020年代後半に米国人以外で世界初となる日本人宇宙飛行士による月面着陸」をわが国の目標として打ち出すなど、様々な取り組みを行ってまいりましたが、次回以降の手紙に譲ります。なお、私自身が中心となって議員立法として昨年成立させた「宇宙資源法」に関する著作(4P参照)を今年10月頃までには出版する予定です。ご関心のある方は「二読下さい」。

これからも地道に活動を続けてまいりますので、今後ともご指導よろしくお願いたします。

令和四年九月吉日

参議院議員 小林鷹之